

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302321		
法人名	有限会社 花束		
事業所名	グループホーム ひまわり A棟		
所在地	郡山市安積4丁目334-1		
自己評価作成日	令和3年1月25日	評価結果市町村受理日	令和3年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意向を出来る限り把握できるような支援を目指しています。また、個々に合わせたサービス提供を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 町内会に加入し、地域の一斉清掃に職員が参加している。コロナ禍で現在は自粛中であるが、地域の敬老会に利用者が出向き、地域の高齢者との交流を重ねている。事業所の夏祭りには、周辺の住宅等へ直接チラシを持参のうえ配布し、多くの住民の参加を得て、交流を図っている。日頃の散歩の折には、地域の人々から声をかけられたり、挨拶を交わすなど日常的な交流が図られている。
 2. 事業所の畑で利用者とともに野菜を栽培し、食材に利用している。また、利用者の家族や近隣の農家などから野菜の差し入れがあり、旬の野菜を使用した手づくりこだわった食事の提供に努めている。月1回は出前の日として食堂から取寄せている。また、誕生日の希望食や季節に応じた行事食、外食に代わるテイクアウトなど変化を持たせ、コロナ禍でも楽しみのある食事の提供に努めている。

1kai

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の思いや意識を盛り込み分かりやすい言葉で作成した。申し送りの際に再確認し実践している。	理念は、5年前に見直しを図り全職員で話し合って新たに策定したものであり、玄関や各ユニットの事務室に掲示し、毎日朝礼で唱和して浸透を図っている。管理者は全体会議などで理念に基づくケアの重要性を説明し、年間計画の行事等を通して理念にある地域との交流に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、地域清掃や敬老会等に参加している。ホームの夏祭りには地域の方の来訪もある。	町内会に加入し、以前は利用者も参加していた地域の斉清掃に職員が参加している。事業所の夏祭りでは近隣にチラシを配布し、多くの住民の方々の参加を得ている。また、コロナ禍前はピアノや大正琴演奏の地域ボランティアを受け入れ、コロナ禍以降も月1回の訪問理容やパンの訪問販売を受け入れて継続的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域貢献までは至らず、今後関係機関や職員と話し合いながら取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的開催し状況・課題について報告、意見や地域の情報をいただいている。利用者様にも参加していただき、話の輪に交ってもらっている。	運営推進会議は民生委員・地域包括支援センター・介護相談員・家族・利用者で構成し、2か月に1回開催してきた。昨年の4月と8月にコロナ感染者の増加に伴い中止にした以外は感染対策を講じて開催してきた。なお、昨年12月以降は、感染推移や他事業所の開催状況を見て、書面会議に替えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護サービス相談員の訪問を機に連携を図り地域情報を教えて頂いたり、解決に向けた相談をしている。	市担当者とはメールや電話等でやり取りを行っている。また、運営やケアに関する問題等については、地域包括支援センターや行政センターを介して助言や指導を受けている。コロナ禍で中断しているが、市から委嘱を受けた介護相談員による毎月2回の訪問があり、市とのつなぎ役になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束により利用者様に与える苦痛を全職員が認識し身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会は2か月に1回開催し、内容は職員会議において職員に伝達し、周知に努めている。現在コロナ禍のため、長時間の研修は避け、職員の研修は資料の回覧で実施し、身体拘束をしないケアに努めている。また、入居時に生活上のリスクについて家族に説明し、身体拘束をしないケアに対する理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解と遵守をスタッフ会議で話し合ったり勉強会を開催し徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き情報の統一や知識を高めるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の料金改定の際は十分な説明の時間を取り、不明な点を随時確認しながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも話して頂ける環境作りを心掛けている。日頃の会話や様子から思いをくみ取り、サービスに反映出来るよう努めている。	利用者の意見は、コミュニケーションを図りながら聞き出すように努めている。特に、散歩や就寝介助の折などにゆっくり話を聴き、意見の把握に努めている。家族の意見は、面会時に意見を聞いていたが、コロナ禍以降は電話での生活状況報告時に伺い、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で意見、要望を聞き、反映させている。日常の中でも言いやすい環境が出来よう心掛けている。	各棟リーダーから職員から出された意見等の報告を受けているが、管理者は普段の業務の中で職員に話しかけながらコミュニケーションを図り、意見の把握に努めている。利用者に応じた移乗等の介助方法の提言を受け標準化を図るなど、職員から出された意見は運営やケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や研修会への参加等、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じて出来る限り研修会に参加出来るようにしている。また会議にて報告を行い内容の共有化、実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度、近隣のグループホームと連絡協議会を開催し、意見交換をしたり利用者の方の交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して過ごしていただけるよう寄り添い傾聴し、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の立場に立って気持ちを受け止めたり、不安、要望に耳を傾け信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様の実情や要望、不安をもとにその時点で必要な部分を見極める事に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線に立ち考えることで信頼関係が築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方にも参加してもらえるような行事を考え一緒に楽しんでもらえるような機械を作っている。電話、手紙等で現状を伝えご家族の思いを受け止めるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションを通じて過ごしてきた時代を教えていただきながら関わりを持っている。	家族からの情報や本人との会話から、馴染みの人や場を教えてもらっている。利用者の希望に基づき友人たちとの会合に参加するために職員が送迎するなど、これまでの関係が途切れないよう支援している。また、家族の協力を得て墓参りを行うなど馴染みの関係が継続できるように支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性や性格を把握し、利用者様同士が関わり合えるよう考え工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	提供が終了時にご家族様に説明し相談していただけるよう話をしている後に必要な情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の観察で把握し、希望に沿えるよう支援している。本人の意思表示が難しい場合は、家族様との連携をしている。	思いや意向は、利用者との会話の中から把握するようにしている。特に、夜間に利用者が起きてきたときにホットミルクなど温かい飲み物を提供し、ゆっくり話を聴きながら本人の思いの把握に努めている。会話の困難な利用者の思いは、言葉かけに対する表情や動作などの反応から推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	電話や面会時に日常の報告を兼ね生活歴を聞いたり、本人様と会話し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡帳や職員同士が報告を共有し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から疑問点等を話し合い、本人様、家族様の意思を尊重し変化をふまえ、介護計画を作成している。	各棟の計画作成担当者が、本人や家族の希望に基づき、職員から収集した情報や主治医・看護師の意見を確認してケアプランを作成している。ケアプランはポイントを絞り、本人の思いに沿った計画になるよう心掛けている。また、モニタリングは、各棟会議で利用者一人ひとりについて話し合い、居室担当者がまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を確認し、話し合い、情報共有に努め見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に発生する状況に応じて職員間で話し合い本人に合わせたサービス提供が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや訪問理容、訪問販売等を利用している。また地域清掃にも参加し地域の方々とのかかわりを持てるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、本人や家族の希望する医療機関で受診できるように支援している。また往診体制もできている。	入居時、医療受診について話し合いを持ち、本人・家族の希望する医療機関で受診が出来るよう支援している。かかりつけ医の受診は、家族対応が原則になっている。大部分の利用者は協力医による往診診療を受けており、ほぼ毎日主治医が来所し、診療に当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が来園し健康チェックをしている。また体調の報告をし主治医への報告や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者との情報交換を行い状況を把握し対応できるよう努めている。退院時は再度情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族様と話し合い家族様の意思を確認している。職員間での情報共有をこまめに行い、支援に取り組んでいる。	入居時、利用者と家族に「重度化、看取りに関する指針」に沿って、事業所として対応可能な内容について説明し、意向を確認している。心身の変化に伴い主治医より家族へ病状について説明があり、家族の意向を確認し同意を得た後、看取り介護支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には適切な対応がとれるようマニュアルを用いて勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練等や連絡網訓練を行い対応できるようにしている。避難の優先順位も分かりやすいように目印をつけている。運営推進会議で協力を呼び掛けている。	消防計画に基づき、火災を想定した避難及び連絡網訓練を年2回実施しており、訓練には、特定の人ではあるが近隣の方の参加もあり、訓練の記録も整備されている。非常時用食料品として、水・お粥・缶詰・チョコレート・菓子類を準備している。	今後は、地震・風水害や夜間想定などの訓練の実施も望まれる。また、地域の方々との協力関係も継続して働きかけてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いや人格を尊重し、傾聴を行ったり、埃やプライバシーを損ねないような話しかけの工夫をし対応している。	利用者一人ひとりが歩んできた人生史や経験を職員が理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応が取れるよう心掛け支援している。また、日々の生活や会話の中から利用者の思いを把握、推測し、一人ひとりに合わせたサービスの提供に結びつけるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりを通じて信頼関係を築き思いや希望を表せるように言葉かけや環境作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思いを尊重し、本人のペースに合わせ穏やかに生活出来るよう支援している。希望や要望があれば可能な限り実現できるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望に対応したり、助言をしながらその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	季節の食材を用いたり食べたい物を聞いて献立に取り入れたり、出前で好みの物を注文したりし、食事を楽しむことができるよう支援している。	利用者と職員が調理の下ごしらえや盛り付け、食器拭き等を一緒に行い、食事も会話をしながら一緒にとっている。献立は、毎日利用者と職員が話し合って決めており、コロナ禍以前は、食材の手配は職員と一緒に掛けていた。また、季節毎に行事食を提供したり、希望に合わせた出前を取って支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	表に記入し、食事、水分量を把握している。こまめな水分提供を行い、水分量が不足しないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様一人一人に合わせ口腔ケアの実施をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間帯や仕草を把握し声掛けや利用者様に合わせたタイミングで誘導、声掛けを行っている	日常生活記録や排泄チェック表から利用者個々の排泄パターンを把握し、プライバシーに心掛けながら、声掛け誘導や見守り等を行っている。可能な限りトイレでの排泄が維持・継続出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルト提供。レクリエーション活動の中では軽体操や腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しんでいただけているよう、季節のゆず湯や利用者様の希望にそった入浴ができるよう支援を行っている。	入浴の日時と回数は利用者の希望に沿って行っている。楽しくゆったりとした入浴が出来るよう職員との会話や手・足のマッサージ、レモン等の入浴剤やゆず湯、菖蒲湯などで支援している。また、利用者の希望に沿って、シャワー浴等も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時に発生する状況に応じて職員間で話し合い本人に合わせたサービス提供が出来るよう努めている。時々状況に応じて利用者様が安心して休息できるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員同士確認を行っている。変更等あれば情報を共有、観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人に合わせた役割をお願いし感謝の言葉をかけている。楽しめる活動として、レク活動や散歩、季節ごとの行事、誕生日会等、気分転換が図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が好きな方に関しては出来る限り期間を作り、地域の方との交流を図っている。テラスでの外気浴は日常的に行っている。	コロナ禍で以前のようなドライブや買物、家族との墓参り、外食等は、制限されているので、現在は、近くの公園への散歩や畑作業の苗植え・草むしり・収穫等を行ったりテラスでの外気浴で、気分転換とストレス解消等を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、支払いが行える方がいない為、職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様等より電話が来た際はゆっくり会話出来るよう環境作りをしている。またいつでも電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候に応じた温度や湿度、光の具合に配慮し、快適な生活空間で居心地よく過ごせるように工夫している。	食堂・居間・廊下の壁には、季節感のある桜の貼り絵や行事の写真、習字等が飾られている。利用者は、リビングの大きいソファや畳の間の掘りこたツなどの思い思いの場所でゆったりと過ごしている。玄関の掃き掃除を利用者と職員が一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他、ソファを配置し思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	好みの物や使い慣れ親しんだ家具やアルバム等を持ち込み利用者様とご家族様の意向に沿った部屋作りをし、安心して居心地よく過ごせるよう支援している。	利用者個々の居室には、家族と相談の上、自宅で使い慣れた馴染みのテレビや時計、ぬいぐるみ、家族の写真、編み物、塗り絵等を持ち込んでいる。プライバシーが守られ、落ち着いて安心した生活が送れるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどにはわかりやすいように目印をつけ、混乱せずに場所が把握できるよう工夫している。		